

出向者からのメッセージ

消費者庁



消費者庁地方協力課総括係

五十嵐 香里
Igarashi Kaori

出向先の紹介と自身の主な業務内容

地方協力課では、消費生活相談や地域の見守り活動といった地方消費者行政の現場を重層的に支援するほか、消費者庁所管の独立行政法人国民生活センターに関する業務をおこなっています。私は、独立行政法人国民生活センターとの連絡調整業務を行うとともに、独立行政法人通則法等に定められた「主務大臣の業績評価」「役職員の報酬・給与水準の公表」等の業務に携わっています。



出向することで経験できたこと、得られた知見

出向を通じて、独立行政法人がどのように運営されているのか、法律で定められた業務や手続きがどのように機能しているのかを実際の業務を通じて学ぶことができました。



高齢化の進行やデジタル化の進展等により、消費生活をめぐる問題が多様化・複雑化するなかで、こうした制度や法律が、私たちの暮らしを守るために欠かせない仕組みであることを強く感じました。

また、行政機関ならではの調整業務を通じて、関係省庁・地方公共団体との連携の大切さ、具体的には、組織横断的な視点で課題解決に取り組む姿勢の大切さを学べたことは、今後の業務において大きな財産となりました。

Career

平成 30 年	採用、経済社会総合研究所景気統計部	令和 5 年	大臣官房総務課秘書専門職付
令和 2 年	消費者庁総務課管理室 給与・福利厚生係	内閣府副大臣付	
令和 3 年	経済社会総合研究所総務部 総務課文書係	令和 7 年	現職

総務省



総務省行政管理局主査

宇田川 恵祐
Utagawa Keisuke

出向先の紹介と自身の主な業務内容

その時々的情勢に応じて新たな行政課題が次々と生まれ、行政の仕事や業務量は随時変化します。様々な行政課題に適切に対応していくためには、行政組織等の在り方を柔軟に見直しながら、各府省の限られた人的資源の再配分により効果的・効率的な組織を構築していく必要があります。そうした観点から、行政管理局や内閣人事局では、各府省のマネジメント層（機構）の新設改廃や職員の定員の再配分に関する審査や、独立行政法人等の新設改廃等の審査を行っており、私は金融庁と財務省の担当をしています。



出向することで経験できたこと、得られた知見

金融庁や財務省での実務経験豊富な方と審査の観点でやり取りすることになるので、当然相手の方がその分野については詳しいし、様々な課題に直面もしています。そんな方々と接し、何が起きていてどのような課題があるのかを理解し、行政組織の観点から検討する機会に携われることは、貴重な経験です。また、これまでに機構や定員を要求する仕事には携わったことがありましたが、審査をする側の仕事もさせていただくことは、どういう観点で審査をしているのか、どのようなことを求めているのかの一端を知る機会となっています。

Career

平成 21 年	採用、政策統括官（経済財政運営担当）付 参事官（総括担当）付	平成 27 年	大臣官房会計課予算第 6 係 参事官（総括担当）付
平成 22 年	内閣官房内閣総務官室	平成 29 年	大臣官房会計課企画法規係長
平成 24 年	大臣官房人事課給与第 1 係	平成 30 年	大臣官房会計課予算総括係長
平成 26 年	青少年企画担当主査付（政策統括官（共生社会 政策担当）付参事官（青少年企画担当）付）	令和 2 年	内閣官房内閣総務官室
		令和 5 年	大臣官房人事課庶務・文書係長
		令和 7 年	現職

こども家庭庁

出向先の紹介と自身の主な業務内容

こども家庭庁は「こどもまんなか社会」の実現を目指し、こども・若者や、こどもたちを育て、支えている方々の声を政策のまんなかに据えた取組を進めることをミッションとしています。

私が所属する総合政策担当では、「こども大綱」の策定、少子化対策、こどもの権利の周知、こどもの意見聴取・政策反映等を行っており、その中でも私は、総務調整係として、主に庶務や会計の業務を担当しております。具体的には、職員の人事・給与・共済等の事務手続きや適切な予算の執行管理などに携わっており、総合政策担当の業務が円滑に進むための調整やサポートを行っております。



出向することで経験できたこと、得られた知見

庶務や会計の仕事はいわゆる裏方の業務ですが、室内の全職員と関わり、また調整やサポートを行う業務のため、コミュニケーション力や柔軟に対応する力がついたと感じております。



こども家庭庁は設立から 3 年目の新しい省庁です。で、日々、新たな取り組みを行っており、また、新しいルールが次々とできるため、慣れるまでは少し戸惑うこともありましたが、その時々で柔軟かつ適切に対応する経験をしたことにより、幅広い政策に取り組んでいる内閣府でも、これらの能力を生かせると感じております。

出向中に得た知見を活かして、今後も日々の業務に励みたいと思っています。

Career

平成 27 年	採用、賞勲局審査官付審査第二係	令和 3 年	大臣官房総務課秘書専門職付
平成 29 年	大臣官房人事課庶務・文書係	内閣府特命担当大臣付	
平成 31 年	庶務担当主査付（政策統括官 （共生社会政策担当）付 参事官（総括担当）付）	令和 5 年	内閣官房副長官補付
		令和 7 年	現職



こども家庭庁長官
官房参事官（総合政策担当）付

坂本 奈津季
Sakamoto Natsuki

出向先の紹介と自身の主な業務内容

大使館は、任国に対する「日本の代表」として、任国政府との連絡調整や交渉、政治経済等に関する情報収集、日本に関する広報文化活動、邦人保護等の業務を行っています。私は経済・開発協力班に所属しており、スリランカにおける人材育成分野の政府開発援助（ODA）、人材の送り出し、日本企業支援等、両国間の経済関係強化に関する業務に従事しています。スリランカにおいては、恒常的な問題となっている外貨不足等を背景に、日本との人材交流などに取り組んでおり、令和 9 年度から開始される育成就労制度の関係では、二国間取り決め（MOC）の締結に向けた協議を行っています。スリランカ政府側と調整をしながら進めていく必要があり、これまでの経験を活かしながら、日本とスリランカの経済関係強化に貢献しています。

出向することで経験できたこと、得られた知見

政府関係者や経済人などとの交流を通じて、当地に
いることで得られる情報を入手することができ、情報
収集力を磨くとともに、現地社会への理解を深めてい
ます。また、日本企業支援に関しては、ヒアリングを
通じて当地に求めるニーズを聞くことで、日本企業が
国内では満たせず、海外に求めているものについて、
よりリアルに把握することができます。

プライベートでは、当地の日本人グループの中で毎週
スポーツをしたり、週末等を利用して毎月近隣国へ
海外旅行に出掛けるなど充実した生活を送っています。



Career

平成 27 年	採用、大臣官房企画調整課審議会等専門職付	令和 2 年	大臣官房総務課企画係
平成 28 年	子ども・子育て本部参事官 （少子化対策担当）付調整第二係	令和 4 年	経済社会総合研究所国民経済計算部 価格分析課研究専門職
平成 30 年	政策統括官（経済財政分析担当）付 参事官（総括担当）付	令和 6 年	経済社会総合研究所情報研究交流部 研究交流官付研究専門職
		令和 7 年	現職

在スリランカ日本国大使館



外務省在スリランカ日本国大使館
二等書記官

高岡 瞭
Takaoka Ryo



内閣府の
ミッション・ビジョン

内閣府の組織概要
及び事務体制

写真や図で見る
内閣府の業務

部局紹介

出向者からの
メッセージ

内閣府職員の
キャリアパス

研修制度・
キャリアパス

内閣府のDX・
ワークライフ
バランス

職員の1日の
スケジュール

2025年度
入府者からみなさんへ

採用関連
情報

内閣府の ロールモデルの例



官邸直結の
政策マネジャー・
プロジェクトマネジャー

総理のリーダーシップを支える中心的な存在として、官邸や特命担当大臣に直結し、国政上重要な政策の企画立案・総合調整を行う。



組織基盤を支える
エキスパート

内閣府のみならず、官邸・内閣官房を含め、国会業務や総務・会計部門等のエキスパートとして、行政運営の基盤を支える。



国民目線に立った
政府のセンタープレーヤー

社会の在り方、国民生活に密接に関わる分野において、国民目線に立って政府部内を強力に調整し、政策を推進する。



政策・制度に立脚し、
現場との接点を持つ
政策分析専門家

経済財政、科学技術分野等、政策・制度の企画立案に貢献する人文・社会・自然科学的知見を実証に基づき提供する。



総理直轄分野の
政策プロフェッショナル

栄典行政、公式制度、公文書管理など国家の基盤に関わることや、沖縄政策・北方対策など特別の理由に基づき総理が担当することがふさわしい分野におけるプロフェッショナルとして政策を推進する。

係員



部局紹介 (⇒ P11)

係員



職員の1日のスケジュール (⇒ P26)

係員



部局紹介 (⇒ P12)

係長



部局紹介 (⇒ P10)

係長



内閣府のDX・
ワークライフバランス (⇒ P24)

係長



研修制度・キャリアパス (⇒ P20)

採用

入府後に、新採用職員研修を実施します。内閣府の業務概要のほか、国家公務員としての心構えなど基礎的な知識を学びます。その後、各部局に配属されます。

係員

内閣府職員の1年生として、先輩や上司から業務の内容や仕事の進め方などを学びます。また、最初は、所属課や係の窓口として、関係部署との連絡調整を行う機会も多くなります。

係長

各係の施策を達成するため、資料作成や関係部局との連絡調整といった具体的な業務の責任者となります。部下への指導も重要な役割となります。

課長補佐

様々な部局を経験する中で培ってきた専門性を活かしつつ、課の施策の取りまとめなど、課長を支える重要な役割を担います。

管理職

課や室の施策責任者として、各種会議に出席する機会も多くなります。また、課室員全体のマネジメントも重要な役割となります。

係員



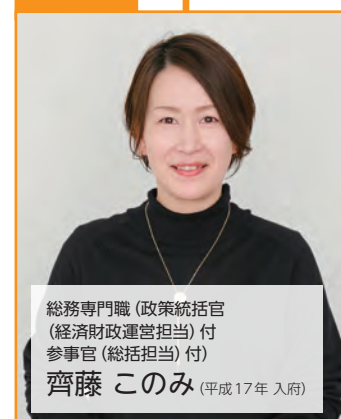
2025年度入府者からみなさんへ (⇒ P27-28)

係員



内閣府のDX・
ワークライフバランス (⇒ P24)

係長



職員の1日のスケジュール (⇒ P25)

課長補佐



部局紹介 (⇒ P11)

幹部職員



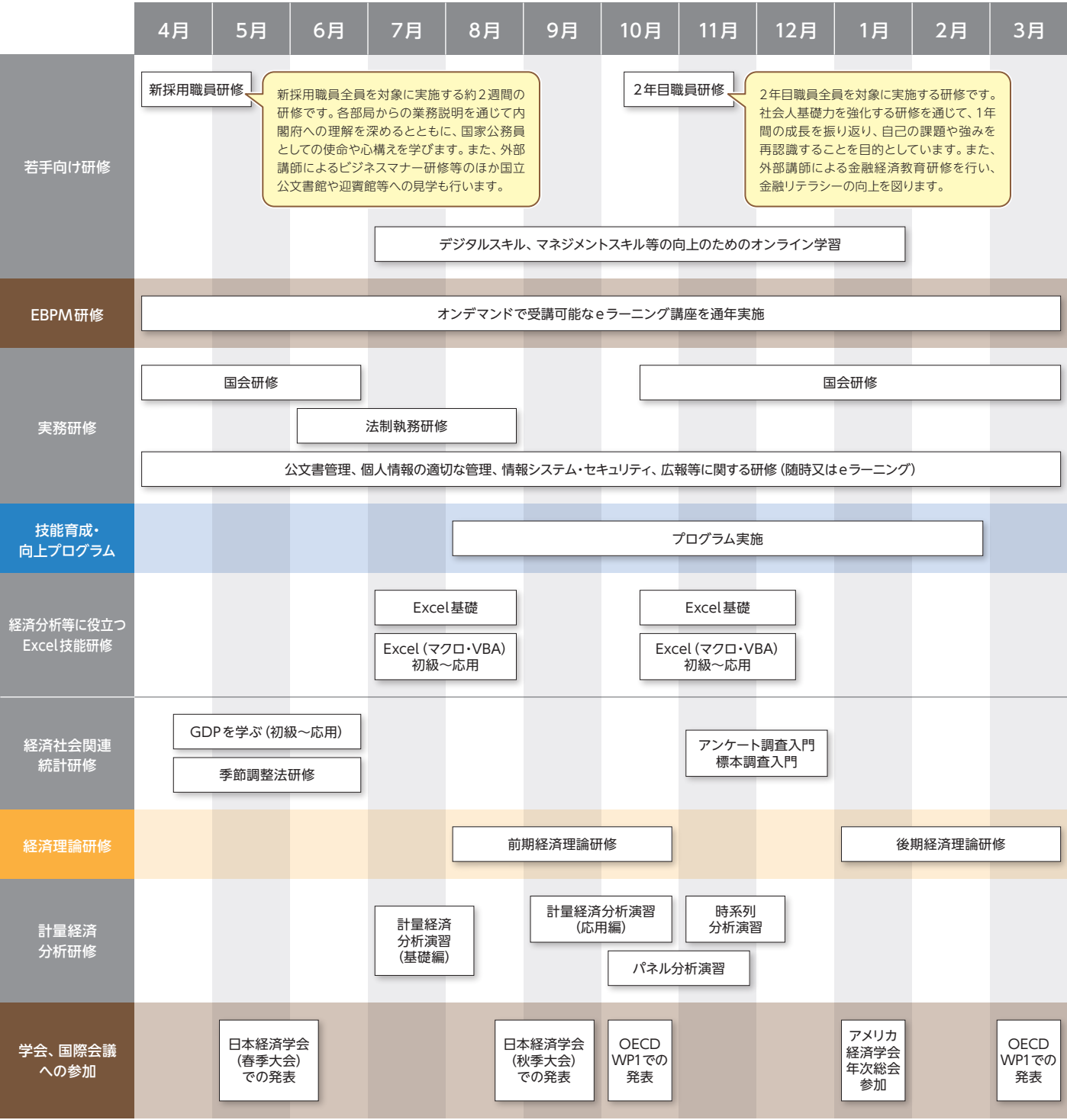
研修制度・キャリアパス (⇒ P21)

内閣府の人材育成

幅広い業務を担っている内閣府では、職員の成長、専門性の向上等のための機会や独自の研修制度が整備されています。

具体的には、新採用職員・若手職員・管理職向けなど、各階層で必要なスキルを身に付けられる研修のほか、国会業務、会計実務等の配属先で必要となる知識を学べる研修や、Excelスキル、経済分析手法等を学べるスキルアップ研修等もあります。

内閣府人材育成の主な取組



係長級の職員

賞勲局審査官付審査第八係長

菅原 知里

Sugahara Chisato

Career

平成 20 年 採用、
経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課

平成 22 年 内閣官房内閣総務官室総理大臣官邸事務所

平成 24 年 賞勲局審査官付調整係

平成 25 年 賞勲局審査官付審査第一係

平成 26 年 会計担当主査付(政策統括官(共生社会政策担当)付参事官(総括担当)付)

平成 28 年 大臣官房人事課任用第2係

平成 30 年 内閣官房副長官補付

令和 2 年 賞勲局審査官付調整係長

令和 3 年 内閣官房内閣総務官室総理大臣官邸事務所

令和 5 年 大臣官房厚生管理官付総務・宿舍係長

令和 7 年 現職

内閣府で働くことについて

内閣府の業務は多岐にわたり、様々な政策を所管しています。特に政策統括官(共生・共助担当)では1つの部局で複数の政策を所管しています。私が在籍していた当時は、現在他省庁へ移管された犯罪被害者等施策や子ども・子育て支援施策なども所管しており、部局の会計担当という立場ではありませんが、多数の政策に携わることができたことは良い経験になりました。また、前職の厚生管理官室では総務・宿舍係として室員の毎月の給与計算や勤怠管理などの庶務業務、そして内閣府宿舍の維持管理や財務省への調査報告といった宿舍業務を担当していました。どちらも未経験の業務であったため、慣れるまでは前任者からの引継ぎやマニュアル、関係法令を何度も確認しながら対応する日々でしたが、庶務業務については各部局に庶務担当は必ずあることから今後また携わる機会もあると思いますので、このタイミングで経験できたことはとても良かったと思っています。

係長級の職員になって感じたこと

係員と異なる面は、係としての方向性を検討・判断する機会が増えたこと、部下の育成だと思えます。方向性については自分一人で検討・判断するわけではなく、上司に相談や、部下の意見も聞きながら行うことから、係内が気軽に相談や話ができる雰囲気であるように心がけています。また、部下に対しては自分が係員だった時の経験で役立ったことや周囲の方から頂いたアドバイスなども伝えながら、前向きに業務に取り組んでもらえるように心がけています。

仕事とプライベートの両立について

やむを得ない場合を除き、残業をしないようにすること、そしてオンとオフの切替えを明確にすることを心がけています。平日は退庁後に仕事の

ことを極力考えないようにして、好きな映画を観たり、食事や睡眠で休息を取り、翌日に疲れやストレスを持ち越さないようにしています。休日は趣味のスポーツ観戦や旅行で心身ともにリフレッシュし、翌週も気持ちよく業務に取り組みるようにしています。

内閣府が求める人材について

内閣府の業務は多岐にわたるため、異動の度に経験のない業務を担当する場合もあります。そのため、経験のない業務でも学びながら積極的に取り組める、向上心のある人材が求められるかと思います。前の部局での経験が異動先で活かされることもありますので、たとえ苦手と感じる業務であっても努力することが大切だと思います。

あなたにとって仕事とは？

自分自身を成長させてくれるものと考えています。業務で得た知識や経験が年々積み重なっていくのを感じますし、実際に業務において過去の経験が活かされることも多くあります。また、知識が増えたことにより視野が広がり、昔だったら気に留めていなかった事柄にも目を向け、考えるようになり、人間としての幅が広がったように感じています。



内閣府への入府を志したきっかけ

利益の追求ではなく、誰かのために働きたいという思いで国家公務員になることを決めました。そのなかで、経済企画庁が行う経済分析など、物事を分析し、深く考えるような仕事が、目標に向けてコツコツと勉強することが好きな自分に合っていると思ったため、経済企画庁を選びました。転職がないことも魅力でした。官庁訪問で自分が何を話したか覚えていませんが、面接官が優しく丁寧に話を聞いてくれた記憶があります。

内閣府で働くことについて

内閣府で働き始めた25年以上前、目の前の仕事を日々こなすのに精一杯でした。もちろん失敗して上司から注意を受けることもありましたが、その失敗を繰り返さないよう失敗の原因を考え、それを活かすことで徐々に仕事を覚えていったと思います。出向も含めて比較的幅広い部局で勤務してきたからか、経験を積むことで視野も広がり、自分のことだけでなく組織や上司から何を求められ、どうすれば同僚や部下と一緒にスムーズに仕事を進められるか、といったことも考えられるようになっていきました。今はそれに加え、すべての仕事が「公務」であることを常に意識することや、部下が抱えている悩みや課題をできるだけ丁寧に汲み取り、助言したり時には自ら対処することで部下が働きやすい環境を整えることを心がけながら仕事をしています。

管理職になって感じたこと

管理職になると、自分で資料を作成したり上司に説明することはもちろんのこと、担当業務について部下と一緒に資料を作成して対外的に説明する機会も増えます。管理職になるまでに培った専門性を活かして、端的で分かりやすい資料づくり・説明をするよう心がけています。また、日頃から部下とコミュニケーションを取ることで、チームの業務が円滑に進むよう気を配るようにしています。

内閣府一般職のキャリアパスの魅力について

内閣府では「〇〇局採用」「〇〇畑」といったことはなく、特に若手のうちは様々な部局・業務を経験するなかで、「行政マン」としての視野を広げながら専門性を高めていくことになります。そうした経験は、補佐や管理職になり部下をもったときにも活かすことができ、不安なく業務を行えると思います。他省庁や独立行政法人などへの出向の機会もありますが、在京勤務が中心で、ライフプランを比較的立てやすいと思います。

内閣府が求める人材について

扱う政策分野が幅広い内閣府では、様々な仕事を経験することになります。新しい仕事を任されても動ずることなく、責任感と好奇心をもって前向きに取り組むことのできる方々と一緒に働きたいと思っています。また、内閣府でも働き方改革を進めていますが、時期や部局によっては勤務時間を自分でコントロールしにくいことがあるため、しっかりと体力をつけて入府されることをお勧めします。



受験者へのメッセージ

内閣府は幅広い分野の仕事に携わることができ、やりがいをもって自身を成長させていける職場です。また、男女問わず育児休業を取得しやすい環境が整っていたり、テレワークやフレックスタイムも活用できたりと、個々の希望に沿った働き方をすることも比較的しやすいです。ぜひ内閣府の門を叩いていただき、一緒に働きませんか。

大臣官房人事課調査官

荻原 哲矢 *Ogihara Tetsuya*

入府後の略歴と職務内容

1年目 (平成7年～平成9年)	3年目 (平成9年～平成11年)	8年目 (平成12年～平成14年)	11年目 (平成17年～平成20年)
長官官房企画課 国会情報の取りまとめと幹部や関係部局への連絡・調整を担当。公務員としての基礎や様々な所管施策を学ぶ	調査局海外調査課 米国の経済指標を調査・分析、海外経済白書等の執筆を担当。分かりやすい資料づくりを心がける	政策企画専門職 (政策統括官 (経済財政－経済社会システム担当) 付参事官 (企画・計量担当) 付) 計量モデルを用いた経済財政の中期予測の算出を担当。中央省庁再編後の新たな政策決定プロセスを体験	出向 (在チェコ日本国大使館) チェコへの日系企業の進出促進や進出上の課題解決に向けての交渉等を担当。自身の視野が大いに広がる

※2001年の中央省庁再編により、その機能の多くは内閣府に継承

19年目 (平成25年～平成28年)	26年目 (令和2年～令和5年)	29年目 (令和5年～令和7年)	32年目 (令和8年～)
経済社会総合研究所 景気統計部統計企画専門官 消費や機械受注の調査と統計の作成を担当。班長となり、部下の作業管理や上司・幹部への説明を任せられる	大臣官房政府広報室 広報専門官 政府の重要政策を広報する番組やCMの制作を担当。コロナ禍のため、より迅速・正確な内容となるよう尽力	休眠預金等活用担当室 企画官 休眠預金を活用して社会課題解決を目指す制度を担当。室員が能力を十分に発揮できるよう全体を見渡す	大臣官房人事課調査官 内閣府一般職職員の能力発揮に向けて人事制度の運用を担当。各職員と部局との架け橋となって、より円滑な組織運営の支援に努める

内閣府における「働き方改革とDX推進」と、ワーク・ライフ・バランスの推進

内閣府では、令和4年に働き方改革・DX推進室を設置し、「内閣府のミッション」を実現するため、職員が生き生きと働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

例えば、

デジタル環境の変化

内閣府では、令和6年に政府共通の標準的なPCやネットワーク環境（ガバメント・ソリューション・サービス（GSS））を導入。チャットや自動化のためのアプリケーションの活用、テレワーク時における個人所有のPCやスマートフォン・タブレットの業務活用（BYOD）などが進んでいます。

オフィス改革

書棚などの整理により確保したスペースに、打合せスペースやミーティングブースを設置しています。

サークル活動

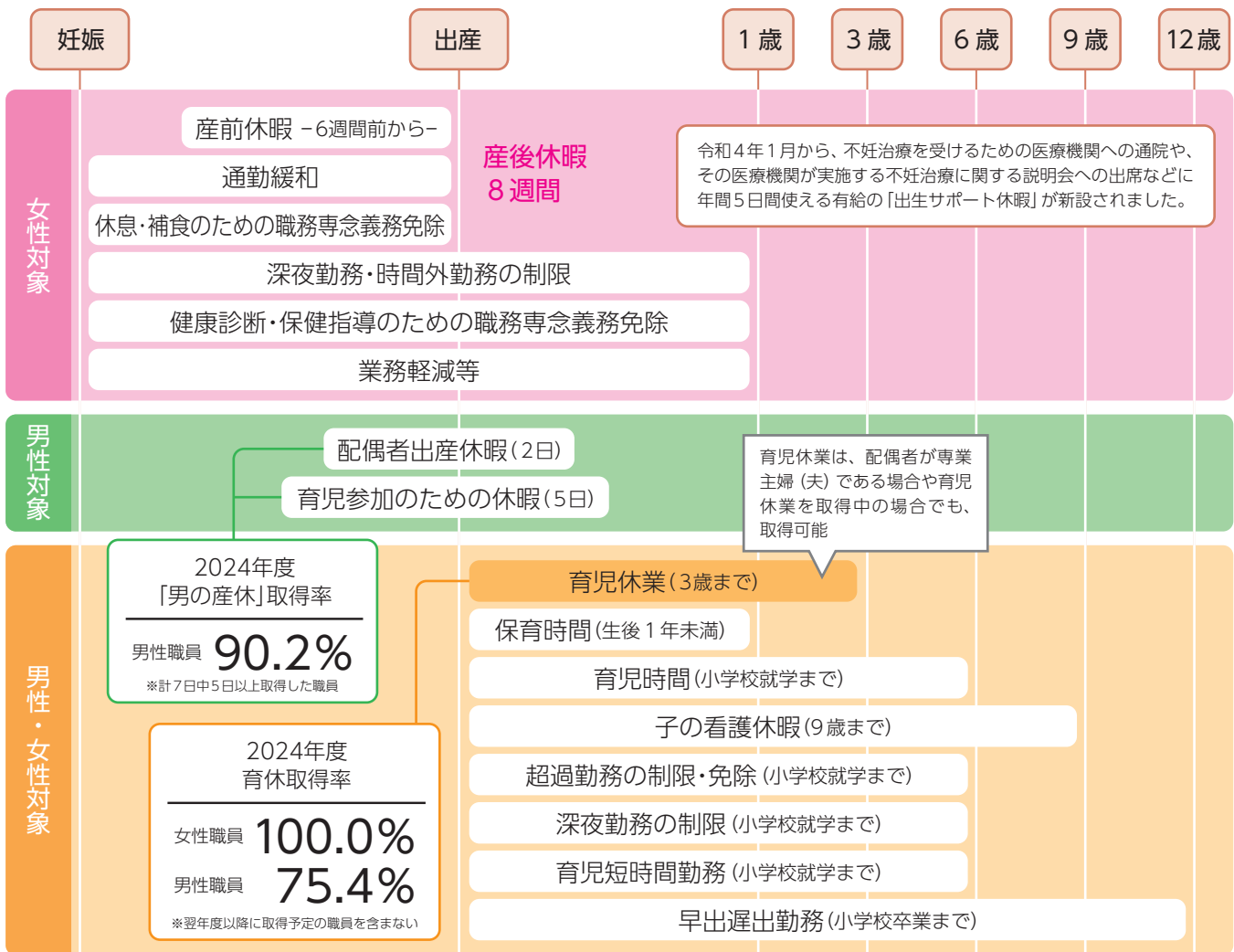
内閣府では、有志の職員がサークルを結成し、活動しています。野球部、書道部、ヨガ部など様々なサークルがあり、年代や職位にこだわらない、趣味や興味でつながる交流の場となっています。

パパ・ママ予定届

妊娠が判明したらパパ・ママ予定届を提出することにより、職員が上司に気兼ねなく相談し頼ることができ、産休・育休を取得しやすい環境を整備しています。



仕事と子育ての両立のための制度



育児休業取得者からのメッセージ



政策企画専門職（政策統括官（共生・共助担当）付
参事官（共助社会づくり推進担当）付）

平成26年 入府

渡辺 潤

Watanabe Jun



ことで、自分を育ててくれた両親にも一層感謝できるようになった気がします。育児休業は子どもの成長を見届けるだけでなく、家族を振り返る大切な期間でもあると思います。

●復帰後の仕事について

政策統括官（共生・共助担当）付参事官（共助社会づくり推進担当）付にてNPO法人制度を担当しています。NPO法人の皆様にご活躍いただけるよう、主に法律の運用面でサポートさせていただいております。

●育児休業の取得前・後でどのように働き方が変わりましたか

育児休業取得後は、その日の退庁予定時間から逆算して、仕事の段取りを考えるようになりました。退庁時間をあらかじめ意識しておくことで、育児休業取得前と比べ、効率的に働けるようになった気がします。また職場の上司・同僚からも育児への理解を示していただけしており、気兼ねなく休暇取得

●育児休業中に感じたこと

私は、息子の出生時に約6か月間の育児休業を取得しました。育児休業取得前は配偶者出産休暇・育児参加休暇も取得していたため、余裕をもって出産・育児の準備を行いました。休業中は日々の育児を通して、息子の成長を見守ることができ、父親になったことを実感できる期間でした。実際に育児をする

の相談ができる雰囲気も非常に有難く感じています。周囲から受け取った育児理解のバトン、次なるパパ・ママにしっかりつなげていきたいと思っています。

●育児と仕事の両立を考えている学生にメッセージ

育児も仕事も、大切な人生の一部だと思います。その日の仕事を終えて家族が待つ家に帰る、一見すると当たり前の日常に思えますが、それだけで十分充実した気持ちになれると思います。内閣府では出産・育児のための制度が様々な用意されており、仕事と育児を両立させやすい環境が整っています。皆様の進路候補の一つとして、是非内閣府を御検討下さい。



賞勲局総務課企画調査第二係

令和3年 入府

北條 香穂

Hojo Kaho

●育児休業中に感じたこと

子どもと向き合う大切な時間を持つことができました。生活リズムの変化には戸惑いもありましたが、夫が産後パパ休暇を取得してくれたことで、夫婦で育児を分担することができ、精神的にも大きな安心感がありました。復帰にあたっては、上司や同僚の理解と業務面で御配慮いただき、安心して職場に戻ることができました。時短勤務での復帰で、効率



的に業務を進めることを意識し、業務の優先順位を明確にしています。

●復帰後の仕事について

政策統括官（共生・共助担当）付障害者施策担当において、審議会の運営に係る業務として、委員や関係省庁との連絡調整、資料作成のほか、部局の総括担当からの照会案件への対応を行っていました。

●育児休業の取得前・後でどのように働き方が変わりましたか

育児休業取得前は、時間をかけて業務に取り組んでいましたが、復帰後は時短勤務となったことで、限られた時間の中で成果を出す働き方へと意識が変わりました。業務の優先順位を明確にし、早めの共有や相談を心がけることで、育児と仕事の両立を図っています。周囲の理解や協力にも支えられ、無理なく働き続けられる環境だと感じています。



●育児と仕事の両立を考えている学生にメッセージ

育児をしながら働き続けることは決して簡単ではありませんが、上司や同僚、家族のサポートを得ながら、自分なりの働き方を模索していくことで両立は可能だと感じています。内閣府には、育児休業や時短勤務などの制度が整っていることに加え、子育てをしながら働く先輩職員も多く、相談しやすい環境があります。将来、育児と仕事の両立を考えている方にも、安心して挑戦してほしいと思います。

総務専門職
(政策統括官(経済財政運営担当) 付
参事官(総括担当) 付)

齊藤 このみ

Saito Konomi

平成17年 入府



現職の業務内容を教えてください。

庶務・給与担当として、月次給与等の計算・支給、各種手当の認定・改定、出張旅費の精算、勤務時間管理に関すること、及び各種調査への対応などを担っています。

日頃業務を行う上で意識していることは？

年次や役職、府の内外を問わず「丁寧に对应すること」を心がけています。人脈が広がることで、業務に資する情報のやり取りができ、結果、業務を効率的に進められ、能率が向上すると実感しています。

繁忙期と閑散期、1年間を通して、何を意識して業務に取り組んでいますか？

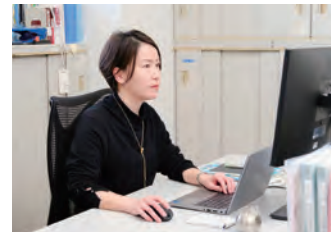
同時進行で行わなければならない各業務の内容の把握、及びスケジュール管理を徹底し、「事前にできることは事前に」準備を行うことで、繁忙期においても冷静に状況を整理し、誤りや遅滞なく業務を行うことを意識しています。

あなたの気分転換の方法は何ですか？

同僚や後輩とランチや飲み会に出かけたり、帰宅後は子どもたちと食事・対話をする時間を大切にしています。いつか子どもたちと一緒にダイビングにもリトライしたい！

9:00 メールチェック

登庁したらずはメールを確認します。一つ一つ内容を確認しながら優先順位を整理し、対応すべき業務の全体的なスケジュール管理を行います。



10:00 依頼・照会への対応



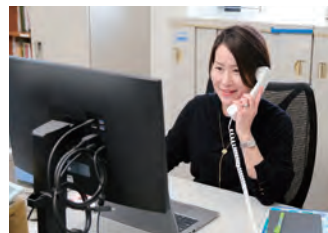
他省庁からの転入者が多く所属する部局のため、室内・府内からのほか、各省庁からの依頼や照会なども数多く、タスクが溜まり過ぎないようにすぐに対応できるものから迅速に対応します。

12:00 お昼休憩

同僚とランチに出かけたり、お弁当を食べながら自席でサブスクを楽しんだり、オフの時間はしっかりと休憩を取るようになっています。



13:00 府内、各省庁との連絡調整



人事異動期などにおいては、異動する職員の給与情報などを整理した調査を作成し、府内や各省庁担当者と情報連携を行います。時に、一度に数十名の異動について連絡・調整することもあります。迅速な対応を要する中においても「丁寧に・冷静に・正確に」を欠くことがないよう気をつけています。

15:00 給与にかかる作業

次月に支給する給与データの更新や各種諸手当の認定・改定、出張旅費の清算対応等を行います。幹部への調整を要し、且つショートな作業となる案件などは、上司へスケジュール感や作業方針についてご相談しながら進めます。



17:45 退庁



仕事に復帰後、子どもたちが保育園の時は、毎日2時間の育児時間を取得し、仕事と家庭の両立をしてきました。子どもたちも大きくなり今はフルタイム勤務ですが、業務に支障がない限り定時退庁し、帰宅後は家族との時間を大切にしています。

大臣官房会計課審査第1係

野路 友暉

Noji Tomoki

令和5年 入府



現職の業務内容を教えてください。

内閣府及び内閣官房に関する予算の執行管理業務や、会計検査院が実施する会計実地検査への対応などを担当しています。

日頃業務を行う上で意識していることは？

業務の中でうまく対応できなかったことがあった際には、その原因を振り返り、自身の業務の進め方を見直すことで、改善につなげるよう心がけています。

繁忙期と閑散期、1年間を通して、何を意識して業務に取り組んでいますか？

業務量の波を見据えて計画的に業務を進めつつ、閑散期には定時退庁や休暇取得を心がけ、オンとオフの切替えを大切にしています。

あなたの気分転換の方法は何ですか？

街の散策や温泉巡りで気分転換を図り、時間があるときには旅行を楽しんでいます。都心で働く中でも、自然を感じられる環境を意識的に取り入れています。

9:15 出勤・業務準備

始業前に余裕をもって出勤し、落ち着いて業務を始められるよう、事前の準備を大切にしています。

9:30 メール・スケジュール確認

届いているメールに目を通し、対応が必要な案件を把握します。前日の積み残し業務も含めて優先順位を整理し、問い合わせ対応や作業依頼の内容を踏まえ、一日の業務の流れを考えます。

10:30 作業依頼への対応

当日中に進めるべき案件について対応します。作成済みの資料についても、時間を空けて見直すことで誤りに気づいたり、より良い内容を検討したりすることができるため、再確認を大切にしています。



12:00 お昼休憩



庁舎内の食堂で同僚と昼食を取ることが多いほか、弁当を持参したり、先輩や同期と近況報告を兼ねて外食に出かけることもあります。午後に向けたリフレッシュの時間として大切にしています。

13:00 決裁資料の確認作業

午後は、決裁資料の確認や資料作成など、作業に集中する時間が多くなります。各係からの決裁を俯瞰的に確認する立場であることを意識し、丁寧な確認を心がけています。



15:00 問い合わせ対応



会計事務に関する問い合わせに対応します。属人的な対応を避けるため、関係法令を確認した上で、回答内容はメール等で記録を残し、共有できる形で対応しています。

17:00 業務整理・翌日の準備

その日の業務の進捗を整理し、資料作成や翌日の準備をおこないます。後から見返しても分かりやすい形を意識しています。



19:00 退庁



業務状況に応じて定時退庁を心がけています。定時後は、運動不足解消のため二駅分歩いて帰宅したり、気になるお店を探したりして気分転換を図っています。繁忙期には、状況に応じて遅い時間まで対応することもあります。

2025年度入府者からみなさんへ

2025年度に入府した先輩たちのメッセージを通して、彼らの志、

内閣府の印象、そして内閣府を目指すみなさんへのメッセージを紹介します。



内閣府を志望した理由は？

各省からの出向者と働く機会が多く、多様な価値観・考え方に触れながら成長することができると思いました。

国家公務員は多様な業務に携わりますが、そのなかでも特に多様性に富んだ業務に携われることが魅力で志望しました。

多様な業務を通じて適性を見極め、キャリアを築けると考えたからです。官庁訪問で職場の雰囲気感触に惹かれたことも理由の一つです。

男女共同参画など自分の関心がある分野が扱われているだけでなく、経済・社会の両方の面からよりよい国政を考えることができると考えたためです。

国の重要課題に横断的に関わり、政策の方向性を支える内閣府の役割に魅力を感じ、志望しました。

日本が抱える問題に対して多角的にアプローチができる点に魅力を感じたためです。色々な事業が存在するため、仕事をしていて日々新しい発見があります。

内閣府では様々な部局で、様々な業務を経験することにより自分にあう専門分野を発掘できると思ったからです。

国政の中心である中央省庁に就職することが目標であり、その中でも、多様な仕事に携わることができる内閣府に大きな魅力を感じ、志望しました。



入府以来、一番印象に残っている仕事は？

内閣の組織に携わることができたことです。国の根幹を支える仕事であると肌で感じ、強く印象に残りました。

大臣出張で万博に行ったことです。資料準備、大臣レク、当日の案内で担当させていただき、貴重な経験となりました。

骨太方針策定のために国会議員や政務三役への根回しに随行で行き、最前線で政策の決定過程を見れたことです。

パキスタンへ出張に行ったことです。初海外出張でもとても緊張しましたが、現地の方とのコミュニケーションを通して日本の良さを再認識しました。

統計作成に携わったことです。日本の経済を表す統計なので、国で働いていることを改めて認識しました。

叙勲審査で多くの資料を確認し、一つ一つの功績を丁寧に検討した経験が強く印象に残っています。

GDP速報の作成、公表に携わり、ニュースで取り上げられているのを見て社会に貢献できた実感を持ってました。

トランプ・アメリカ大統領の接遇に携わったことです。首脳会談等の歴史的な出来事に携わることができ、大変貴重な経験を積みました。

組織に携われたことです。非常に貴重な経験であり、国を支える仕事であることを身をもって感じた仕事でした。



仕事上の夢や目標は何ですか？

自分の行った業務のその先に何があるのかまで考えて、業務に取り組めるようにしていきたいです。

様々な業務を経験し、広い視野から物事を考えられるようになりたいです。また、まわりから信頼される人材になりたいです。

目標は、何事にも貪欲に取り組む姿勢を忘れず、周りの方々の良いところを吸収して頼りになる人材になることです。

仕事を通して学ぶことは多く、一つ一つを吸収しながら、常に成長を意識して上を目指せる職員でありたいと考えています。

現場の状況に合わせて柔軟に工夫し、今に合ったやり方へ改善することで作業効率を高め、より社会に貢献していきたいです。

国民に誇れる日本を築くため日々の業務に全力を尽くし、知識を深め、その力を活かしていきたいです。

上司の方がしてくれているように後輩にも優しく分かり易く業務を伝えられるように知識を身に付けたいです。

一緒に仕事をする方に頼もしいと思ってもらえるような人材になることです。また、広い視野で業務をこなせるようになりたいです。

多様な変化に対応し、広い視野と柔軟性をもって、常に成長し続ける職員を目指しています。

入府を目指す学生へメッセージ



内閣府は、様々な経験を得たい、変化を恐れないという方に向いていると思います。是非内閣府を検討してみてください。

内閣府では多様な業務に携わることができるため、実際に仕事をしていく中で自分のやりたいことと出会えることが魅力です。

業務は多岐にわたり責任も伴いますが、やりがいのある仕事だと感じます。職場の上司や先輩もとても親切で働きやすい環境です。

上司や先輩は社交的な方が多く、業務で困っている内容があったとしても質問しやすい雰囲気なので、とても仕事のしやすい環境です。

様々な業務に触れることのできる内閣府は自身の可能性を広げる絶好の場であると思います！皆さんとともに働くことを楽しみにしています！

最後まで諦めずに、自身の良いところを発揮できれば、きっと報われる！何事にも自分から行動すること！

非常に多くの政策・業務に関わる場所です。新しいことにチャレンジしたい方、様々な角度から意見を出せる方、ぜひ内閣府を選んでください。多くの方と関わるのも魅力です。

様々な政策分野を所管しているため、好奇心旺盛で興味関心が幅広い方には最適な職場です。

堅いイメージがありますが明るい人が多く仕事しやすい環境です。説明会などで雰囲気を実感してもらえればと思います！

みなさんからのよくある質問や業務説明会、近年の採用状況についてご案内いたします。



Q1 内閣府ではどのような人材を求めていますか？

A 内閣府はその任務が広範多岐にわたり新たな行政課題を担当する機会が多いことから、特定の分野に偏らない「広い視野」と優先順位を的確に判断できる「バランス感覚」が求められます。ただし、これらの能力は内閣府で仕事をしているうちに自ずと磨かれていくものです。内閣府の使命に興味を持ち、国政の中枢で働くことへの意欲にあふれた方をお待ちしています。

Q3 採用後は自分が興味を持っている分野へ配属されますか？

A 配属先は、職員の希望を踏まえつつ、人材育成上の必要性などを総合的に考慮して決定されます。また、人事異動は概ね2～3年毎に行われ、様々な業務を経験することにより、能力・適性に応じた専門性を培っていくこととなります。したがって、常に希望どおりの人事異動が行われるとは限りませんが、少なくとも入府後の数年間は国家公務員としての基礎体力を備えるための良い機会だと思って、何事にも積極的に挑戦しててください。なお、配属先に関する希望を申告する制度も用意されています。

Q2 出身学部や試験区分の違いは採用に影響しますか？

A 幅広い業務を所掌する内閣府では多様なバックグラウンドを持った人材を求めています。採用はあくまでも「人物本位」です。我が国の経済・社会の在り方や国政上の重要かつ最新の課題について旺盛な知識意欲を持って学ぶ姿勢、官民間問わず様々な方と対話できるコミュニケーション能力などを評価しています。官庁訪問では、「ありのままの自分」をあなた自身の言葉で語ってもらえれば良いのです。

Q4 給与はいくら支給されますか？

A 一般職（大卒程度）試験で採用された職員は月給287,600円、一般職（高卒者）試験で採用された職員は月給249,560円です。なお、職歴等がある場合には、この金額にさらに加算された金額となる場合もあります。採用後の昇給は毎年1月1日に行われます。この他、扶養手当（扶養家族がある者に、子13,000円等）、住居手当（賃貸のアパート等に住んでいる者等に最高28,000円）、通勤手当等の諸手当が支給されます。さらに、6月と12月に期末手当・勤勉手当（いわゆるボーナス）が勤務成績等により異なりますが、標準の場合には、1年間に俸給等の約4.65月分が支給されます（採用直後は勤務期間が短いため、減額されます）。

Q5 採用後の社会保険等はどうになりますか？

A 内閣府の職員として採用されると、内閣共済組合に加入します。共済組合では、職員の給与から徴収される掛金を基に、病気やケガ等をした際の医療給付や退職後の年金給付を行っています。これらは健康保険や厚生年金に相当するもので、職員が安心して職務に専念できるように生活面から支える制度として設けられているものです。この他、福利厚生としては、定期健康診断の受診、保養施設の利用、マイホーム購入時の資金融資等が用意されています。

Q6 転勤や出向はありますか？

A 内閣府の勤務地は、主に東京都となります。多くの省庁のように数年おきに転勤を繰り返すことはありませんので、単身赴任等を心配することもなく、安心してライフプランを設計することができます。一方、内閣府では他省庁との人事交流を積極的に行っています。現在の主な出向先は下図の通りです。特に内閣官房へは多くの職員が出向しており、国政の中枢を支えています。また、能力や適性に応じて、在外公館等に出向する機会もあります。多様な行政分野や価値観に触れ、考え方の幅を広げる重要な機会となっています。

主な出向先（令和8年2月現在）

● 他省庁・地方など

総理官邸などの内閣官房、内閣法制局、宮内庁、警察庁、消費者庁、総務省、外務省、文部科学省、国土交通省、環境省、復興庁、参議院、沖縄総合事務局、独立行政法人など

● 在外公館

クロアチア大使館、スリランカ大使館、チリ大使館

内閣府の業務説明会のご案内

内閣府では、内閣府への興味や理解を深めていただくため、業務説明会などのイベントを実施しています。

業務説明会では、内閣府の役割・特徴や非常に幅広い業務内容について、採用担当職員がわかりやすく説明します！

その他、若手職員がこれまでの経験や職場の雰囲気などをお話するコーナーや、より具体的な業務の内容を聞いたり、質問したりしやすいように少人数制による座談会も開催しています。

内閣府に関心のある方もない方もぜひご参加ください。あなたのやりたいことがきっと見つかるはずです。

最新情報は、内閣府ホームページからチェックしてみてください！



近年の採用状況

採用年度	一般職（大卒程度）		一般職（高卒者）	
	採用男性	採用女性	採用男性	採用女性
令和4年度	8名	8名	5名	11名
令和5年度	9名	12名	7名	11名
令和6年度	6名	9名	10名	11名
令和7年度	7名	8名	9名	11名
令和8年度	6名	8名	9名	11名

その他、聞きたいことや確認したいことがありましたら、「内閣府一般職採用担当窓口」までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

内閣府一般職採用担当窓口 大臣官房人事課任用係
〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 TEL:03-5253-2111（内線31343）